

## 第1回 いなべ市立小学校適正規模検討委員会 会議概要

- 1 日 時 平成24年5月24日(木)  
開会 午後2時  
閉会 午後4時
- 2 場 所 大安公民館2階 大会議室
- 3 出席委員 丸山康人 東川薫 日沖貴 小林芳樹 日紫喜隆嘉 近藤吉江  
児玉美奈子 黒淵泰博 小林共子 藤井豊 三羽守夫 川村光次
- 4 欠席委員 近藤利彦
- 5 出席した事務局職員の職氏名  
教育委員長 川瀬正幸 教育長 片山富男  
教育部長 近藤重年 教育総務課長 小林幸次  
学校教育課長 小川専哉 学校教育課課長補佐 伊藤彰浩  
教育総務課課長補佐 梶正弘 教育総務課主任 辻貴久子
- 6 会議次第
  - 1 開会
  - 2 教育委員長あいさつ
    - ・委員の委嘱
    - ・委員の紹介
    - ・事務局職員の紹介
  - 3 教育長あいさつ
  - 4 いなべ市立小学校適正規模検討委員会設置要綱について
    - ・会長の選任
    - ・会長のあいさつ
  - 5 議事
    - 日程第1 小学校適正規模について
      - ・適正規模とは
    - 日程第2 今後の検討委員会について
      - ・意見交換
      - ・提案
  - 6 その他
  - 7 閉会

## 7 会議の要旨

### 会長の選任

- ・丸山康人氏が会長に選任された。

### 日程第1 小学校適正規模について

- ・狭い地域に関する人口推計で一番左右されるのは、出生数や死亡数ではなく、地域の人口密度であり、家庭に子どもがいるかいないか、また人の出入りというのがポイントになる。学校は地域のセンターでもあるので市の基本計画に使われている人口推計等との整合性をとることが必要である。
- ・定住自立圏構想として東員町といなべ市の共同で、人口増加、若者の定住を目的に各分野で事業化されている。学校だけを考えて学校規模を考えることはできない。
- ・大都市近隣の自治体の若者は、大学で県外へ出ると、教員か公務員か銀行員しか戻ってこない。自治体として対策を考えないと人口はどんどん減少していく。

- ・一般的に若者の就職は、「景気が良いと東京へ、景気が悪いと地域へ」といわれる。今は戻る可能性のある時期であるが、地域に戻りやすい環境になっているかが重要である。
- ・少数人の子どもで小学校の6年間を過ごすことに対する不安が保護者にあるときいている。
- ・藤原地区の場合、保育所は藤原地区で1つであるが、小学校は5校に分かれ、中学校でまた一つになっている。
- ・これまで、複式学級解消のための取り組みを行ってきた学校も、複式学級解消が難しくなってきたことから、今年は複式の中でより充実した教育をという方針に変更されている。
- ・学校の適正規模を考えていくにあたり、「子どもたちに質の良い教育を与えるのだ」という一点に立たない限りスムーズに行かないだろう。
- ・学校を統廃合すればすべて良いものができるわけではない。統廃合によるひずみや問題点が予測されるのであれば解決策も併せて考えておかななくてはならない。
- ・山郷小は、かつては小規模校だったが、現在は適正規模校になっている。児童の半数は市外からの転入者で、外国籍が1割ほどである。そんな状況においても、学校は子どもを育てる地域をつなぐ役割を担うと考える。
- ・藤原の小学校では、それぞれの学校で特色ある学校づくりを目指してきた。年々児童数が減少し、特色ある事業を継続することに不安を感じている。
- ・1学級の人数は子どもの心身の安定、学力の定着や向上と関係がある。員弁東小学校は過密学級であっても落ち着いた学級状況である。新興住宅が建たず住民の流入がないからかと思う。住宅開発については、単に数を増やすことだけを考えるのではなく、地域の安定を考えていただくと、学校の安定・子の心身の安定につながる。
- ・8人の学級があるが、学力は高いが、声が小さいなど活力のなさを感じる。集団の中での切磋琢磨がないと生きる力が弱くなるように感じる。
- ・藤原で幼稚園と保育所が1つに統合され、各小学校区に1つではなくなってから、保育所と学校との関わりが薄くなった。
- ・「いなべの教育」とは何なのか、それを実現するための守らなければならないものは何なのかを考えることは、一つの糸口になるのではないかと。
- ・学校を統合する場合には、地域の人々は学校がなくなるというさみしさを持つが、「昔は良かった」ではなく、子どもの保護者も地域も希望を持っていけるような形としていかななくてはならない。
- ・過少学級だけでなく、人口減によりクラスが減り、逆に過密学級になる学校もある。これについても併せて考える必要がある。

## 日程第2 今後の検討委員会について

- ・複式学級など小規模であるがゆえの問題点、課題の実態を調べておかなければならない。
- ・市内の学校には過去に分校を統廃合した学校があるが、その経緯、地元の意見と対応、統廃合前後の子どもの変化などについて資料をまとめてほしい。
- ・2ヶ月に1回程度の検討委員会を予定しているとのことであるが、十分に検討していきたいので、資料は早めに委員の手元に届けてほしい。よく目を通したうえで会議に臨みたい。

## 次回開催予定

- ・平成24年7月17日（火）午後2時から